

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 27 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和 5 年 1 月 20 日（金）午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	出席委員：岡山慶子委員、小野崎耕平委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：梅村光久委員、門暉代司委員 事務局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・議事録は別紙のとおり

第 27 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 5 年 1 月 20 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
 2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
 3. 出席者 岡山慶子委員、小野崎耕平委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、山端裕子委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 梅村光久委員、門暉代司委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、岡本企画振興部長、藤木企画振興部経営企画担当
参事兼課長、小川企画振興部経営企画課政策経営係長

4. 資料

- ・資料 1 令和 4 年度松阪市市民意識調査 結果報告書 重要度と満足度抜粋
- ・資料 2 松阪市管内別 最重点項目

1 事務局より連絡

それでは定刻となりましたのではじめさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。会議に先立ちまして事務局よりご連絡致します。三十三銀行よりお越しいただいておりました中西郁絵委員が都合により交代される事となりました。後任として同じく三十三銀行の山端裕子様にご参画いただく事となりましたので、会議に先立ちまして委嘱状の交付を行いたいと思います。

2 委嘱状の交付

山端委員へ竹上市長が委嘱状の交付を行う。

3 委員自己紹介

山端委員による自己紹介

4 市長あいさつ

市長)

皆さん明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い致します。昨年の個人的なトピックスとしては、冬に体調を崩し 1 週間入院をした事です。おかげさまで全快し、今は健康に過ごさせていただいております。昨日まで 2 泊 3 日の旅程で東京に出張して、松阪市に進出していただいている企業や各種団体を訪問しておりました。その際、企業の皆様が口々に人材が獲得できない旨を仰いました。実は松阪市役所も同様の状況で、現在令和 5 年

度新規採用職員の内定辞退が続出しております。このままだと退職者の人数を補うだけの人数を採用できないかもしれません。かつて公務員は安定職種という事で人気があり、市役所の側がそれほど動かなくてもある程度人材を獲得できましたが、今は相当努力しないといけない状況です。また、市内の事業者も同じ状況です。実はこの会議の前に、市が経済関係の支援をしている団体とコロナの対策会議というものがありました。初めはコロナの影響で仕事が無くなり、市役所が企業と求職者のマッチングを行ったりしていました。ところが今はどの産業分野、事業体でも全く人手が足りないという状況になってきております。コロナの初期に比べると隔世の感があります。今年は経済が大きく動くのではないかと考えています。そのような状況が見込まれるなか、松阪市はどういった事に取り組んでいけば市民の福祉の向上やまちの発展につながるかご示唆をいただければと思います。今年も委員の皆様には活発なご議論をいただければと思っております。本日はよろしくお願い致します。

※松阪市政推進会議規則第5条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

それでは会議の公開・非公開を決定したいと思います。公開で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

それでは公開で進めさせていただきたいと思います。

2 協議事項

1) 令和5年の展望について

会長)

では協議事項に入ります。資料について、事務局からご説明をお願いします。

事務局)

資料1、資料2についてご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。座って失礼いたします。最初に、松阪市民意識調査についてご説明させていただきます。松阪市民意識調査は、当初はおよそ2年おきに、昨年度からは毎年、市民3,000人に対してアンケートを行っているもので、市政運営の基礎資料とするため、市民の市政に対する意識や要望を調査、把握するために実施しています。特徴として、調査の前半では基本項目として毎回聞く部分、後半では行政課題として

その時に課題となっているトピックについて特にピックアップしてお聞きしています。基本項目については、毎回お聞きしていることから、経年変化をみることで現時点でのトレンドを掴むための資料としても有用なものとなっております。資料1は「重要度と満足度 抜粋」とありますが、これは市民意識調査の基本項目の回答の一部を抜粋したものとなります。2 ページの下の表をご覧ください。これは、松阪市の施策を 39 項目に整理し、市民のみなさまにそれぞれ重要度と満足度について5段階評価していただいたもので、ページの中ほどにある算出式で「評価得点」を算出しています。評価得点は最高で5点、最低であれば1点となるようになっており、平成27年度の調査から経年変化が分かるようになっていました。3 ページをご覧ください。これらの39項目の満足度と重要度の評価得点を、縦軸を重要度、横軸を満足度とし、分布図にしています。上に行くほど重要度が高く、右に行くほど満足度が高いこととなります。その分布図に平均値の線を入れて4つの領域に分けることで傾向分析を行っており、特に重要度が平均値より高く、満足度が平均値より低い「A」については、「最重点項目」位置づけ、市民の皆さまが優先して求めている施策として、行政運営の参考としています。4 ページをご覧ください。これは松阪市全域でみた、各項目の分布図となります。そして5ページの表は、分布図のどの領域にどの項目が属するか示した表となります。松阪市全域で見ますと、「防災対策」「浸水対策」「交通安全対策」「道路の整備」「公共交通の充実」「障がい者福祉の推進」「雇用・勤労者対策」「バリアフリー社会の推進」の8項目が最重点項目となっております。6 ページでは、最重点項目が前回からどのように変化しているかまとめられています。例えば「防災対策」「交通安全対策」については満足度が微増である一方、「公共交通の充実」「障がい者福祉の推進」は満足度が減少しているということが分かります。7 ページにおいては、ニーズ得点を算出することで「公共交通の充実」「浸水対策」「防災対策」が、最重点項目の中でも特に市民から求められていると分析しています。そして、8 ページ以降からは、本庁、嬉野、三雲、飯南、飯高の各管内別に、各項目の分布図と、それぞれの最重点項目が記載されており、それらを地図上におとしたものが資料2「管内別 最重点項目」となります。資料2においては、それぞれの管内の地理的特徴を明らかにするため航空写真を重ねた地図と、各管内の最重点項目の部分ピックアップして掲載しており、これらを見ていくことによって、それぞれの管内の特徴が浮き彫りになってまいります。まず、ほぼ全ての管内に共通する課題としては、「浸水対策」「道路の整備」「交通安全対策」の3つがありますが、例えば「公共交通の充実」着目してみます。「公共交通の充実」は、全ての管内で満足度が最も低いですが、嬉野以外の管内では最重点項目となっているものの、嬉野管内においては重要度が低く、最重点項目に入っておりません。これは嬉野管内が近畿日本鉄道の名古屋、大阪方面の接続駅である伊勢中川駅を擁していることなどから、移動手段が充実しているためと考えられます。対して、三雲管内においては、幹線道路が通っているものの、バス路線が少なく、JRや近鉄の沿線から離れていること、飯南・飯高管内においては、山間部で公共交通が少なく、高齢化が著しいこともあり、公共交通を重要視していることが窺えます。嬉野管内におきましては、9 ページにありますように最重点項目の数が3つと管内別で最少となっております。これは、平成19年頃まで10数年かけて、伊勢中川駅周辺で区画整理が行われ、それを契機として、マンションや戸建て住宅、商業施設等ができ、相対的に若年層の人口が増加していること。また、駅とい

う公共交通の拠点を中心としたコンパクトシティが形成され、子育て世代やこどもたちが比較的便利だと感じている結果ではないかと考えられます。それに対しまして、飯南、飯高管内におきましては、重要で現状に満足していない分野として、飯南管内で 13 項目、飯高管内で最多の 20 項目が挙げられています。これは、山間部と平野部という地理的な違いもありますが、ずっと飯南、飯高管内にお住まいで特に不満と感じていなかった方々が、だんだんに高齢となり、様々な分野でご不便を感じられる方が多くなってこられたことが大きな要因ではないかと思われます。そのほか各管内の最重点項目で特徴的なものとしては、三雲管内では「防犯対策」が、飯南、飯高管内で共通するものとして「農林水産業の振興」が挙がっています。また、飯南管内だけ挙げられている項目としては、「保険・医療の推進」「地域福祉の推進」があり、飯高管内だけの項目としては「住環境の整備」「自然環境の保全」「学校教育の充実」「青少年の健全育成」「人権の尊重」「男女共同参画の推進」「中山間地域の振興」「情報・通信の環境整備」「情報公開・情報提供」などがあり、飯高管内では多くの分野の課題解決を求められていることが浮き彫りとなっています。こうした最重点項目以外にも、各管内特徴的な分布をしておりますため、ご覧いただければと思います。長くなりましたが、資料のご説明は以上となります。ありがとうございました。

市長)

松阪市が合併してから今年で 18 年になりますが、市民意識調査によって明らかになった、各施策の「重要度・満足度」を管内別に分けています。嬉野管内には伊勢中川駅中心として、人口の 7 割が集中しています。そのため、無作為にアンケートを行うと回答の 7 割が嬉野管内から返ってきます。そうすると不満なところがほとんどないという事になり、行政需要が殆ど無いという結果になります。逆に飯高管内は行政需要が沢山あります。実は「重要度・満足度」にこれほど地域差があることに愕然と致しました。伊勢中川駅周辺では行政として為すべきことが少なく、飯高管内ではもっと行政サービスを提供すべきという事であります。特に、高齢化の影響は大きく、公共交通の充実の満足度が非常に低くなっています。これは公共交通に依存している人が増えている現れかと思ひます。この結果から、松阪の課題は地域によって違ふという事が分かります。課題を地域ごとに拾い上げていかないといけないと感じております。年初の部長級の会議で、もっとデータを活用して仕事をしていくべきだと伝えました。昨今は EBPM (Evidence Based Policy Making 証拠に基づく政策立案) の重要性も語られております。これからは、住民自治協議会と行政が協力して、地域ごとに課題解決を行っていくべきだと考えております。令和 5 年は中学校区単位くらいで、こうしたアンケート調査を実施していこうと考えております。

会長)

ありがとうございました。それでは委員の皆様、何かご意見はございませんか。

委員)

資料 1 の 2 ページの満足度が軒並み下がっているのが気になります。原因を是非調べていただき

たいと思います。重要度は令和3年度に多くの項目が下がっており、令和4年度には上がっていて、これについても何らかの要因があるかと思っています。要因を分析する事で、今後重要度・満足度の増減について予測の立つ項目もあるかと思っています。「予想率」の様な係数も置きつつ、データ分析を行っていただくと良いのではないのでしょうか。

委員)

本日の資料には無いのですが、市役所のホームページにアップしていただいている、「市民意識調査」自由記述項目の回答を拝見致しました。そのなかで他市と比べて意見を仰る方と、ご自身の損得でご意見を仰る方がいらっしゃいました。私益についての事だけではなく、公益についてのご意見も集めていただくと良いのではないかと思いますので、そういった回答をいただけるような設問を設定していただければと思います。回答を拝見しておりますと、市の為に回答しているという認識が薄い方がいらっしゃるような印象を受けました。「地域の困り事は行政が解決してくれる」と思っている方がいるかと思いますので、課題解決の糸口を見つけた後に、行政から地域にそれを渡していけるような力を育てていく必要があるかと思います。もう一つ、人材の確保につきまして、学校を卒業する子どもたちに対し、魅力ある就職先を可視化してほしいと思います。是非松阪らしさ、松阪の魅力を兼ね備えた企業の情報が学生に届くようにしていただきたいと思います。松阪ならではの認証制度を創設するなどされてはいかがでしょうか。自由記述回答からは、今の時代に対する不安感が感じられましたので、是非それらを払拭していただければと思います。

事務局)

失礼致します。資料1につきまして補足をさせていただきたいと思います。アンケートの実施時期につきまして、「令和元年度」と記載してあるものは令和2年2月に実施しております。ちょうどコロナが蔓延し始める直前の時期になりますので、こちらの回答はコロナの影響を受けていないものになります。「令和3年度」と記載してあるアンケートは、令和3年の8月に実施したのものになりますので、コロナ禍で実施したのものになります。そのため、「令和元年度」から「令和3年度」にかけてのアンケート回答の変化には、コロナが大きく影響しているのではないかと考えております。一方、「令和3年度」から「令和4年度」にかけてのアンケート回答の変化は、コロナ禍が長引く事による不満感のようなものが影響しているのではないかと考えております。

委員)

「重要度・満足度」の増減に、アンケートの回答数が影響しているという事は無いのでしょうか。単純に分母が大きくなれば「満足度」は下がり、分母が小さくなれば「重要度」は上がるのではないですか。回答数によって、回答に何らかの傾向が表れるという事はないのでしょうか。

事務局)

失礼致します。このアンケートの対象者「3,000人」という数字は、統計学上の信頼率が95%と

いう根拠に基づいて算出しております。また、アンケートに対する有効回答数は、令和元年度・令和3年度ともに1,554件で回収率は51.9%となっております。

委員)

例えば回収率が70%になれば「重要度・満足度」は上昇するのでしょうか。回答数が回答に与える影響はあるのでしょうか。先ほど事務局が仰ったコロナの影響というのはあくまで印象だと思うのですが。

委員)

データ分析ソフトを使えば相関関係が分かるので、より多様な分析が出来るのではないのでしょうか。

事務局)

回収数が下がれば、やはり誤差が大きくなってまいります。

委員)

このアンケート調査について、気になる点はいくつかありますが、今後いくらでも修正できると思います。回答の傾向は現行の調査で十分把握出来ていると思います。ただ経年変化を見ていくには、設問項目がぼんやりしているように思います。地域別の回答傾向に対する解釈は、先ほど市長が仰った事で間違いのないと思いますが、地域の区切り方を工夫するとよりクリアに地域課題を把握できるのではないのでしょうか。

委員)

委員に質問させていただきたいのですが、マグニチュード（本質的な需要の重み）はどうでしょうか。地域によって人口密度が違うので、本庁管内の回答数「1」と飯高管内の回答数「1」は、本当は人口比率ベースに回収率を変えないと、公共の部分における松阪市全体のマグニチュードの高さが分からないように思うのですが。

委員)

仰る通りだと思います。人口密度に占める割合というのは勘案する必要があると思います。このデータをもう少し深く分析すれば、色々な事が見えてくると思います。各地域における政策の費用対効果なども確認する事ができるのではないのでしょうか。

委員)

このアンケートの調査票は、今見せていただく事が出来ますか。性別、年齢などの属性で分析する事が出来るようになっているのでしょうか。それと、「満足度」と「重要度」の関係なのですが、

「満足度」が高くなれば「重要度」は下がるような気がするのですが、いかがでしょうか。

会長)

私も、自分自身がこういった調査を実施していた事がありますが、「重要度」は「不満足」に比例して高くなる傾向にあると思います。その為、「重要度」と「満足度」が両方とも上がった、両方とも下がったという項目は要注意かもしれません。委員が仰るように、属性で分析するのも良いかもしれません。

委員)

市長が注力していらっしゃる子育て政策などは、この分析の中でどう反映されているのでしょうか。現状に対する不満などはわかりやすいのですが、市長が力を入れている事に市民がどう感じているかや、市民が松阪市の将来に対してどう考えているかが見えていないように思うので、それらについてはこのアンケートとは別で考えていく必要があると思いました。

委員)

地域別に見ていくのは分かりやすいと思います。医療に対する満足度について見ていきますと、本庁管内・嬉野管内・三雲管内は B、飯南管内は A、飯高管内はぎりぎり B という事になっています。公共交通については、飯高町の満足度は A で、かつ重要度が非常に高くなっています。こういう風に見ていくと、地域ごとに優先して実施すべき施策が見えてくると思います。その為の材料として、このアンケート結果は非常に分かりやすいと思いました。

委員)

私も委員と同じく、このアンケートに子育ての視点が反映されていないように思いました。また、回答に地域差が如実に表れていると思いました。「重要度・満足度」を上げていくには、市民にとって快適な環境の条件を揃えるのが大事だと思います。その為には、例えば高校生はどのような生活をしていて、シニアはどのような生活をしていて、という検証が必要になってくると思います。先日、松尾地区のデマンドタクシーが非常に割安で走行しており、シニアの方に喜ばれているという話をお聞きしました。一方で、公共交通の便が悪いため、その地域を離れられるシニアの方もいらっしゃるそうです。公共交通機関の充実は生活する上で死活問題ですので、そういった環境が整っていない地域では、今後デマンドタクシーなどを検討していく必要があると思います。また、「誰かが助けてくれる」という姿勢の市民の方が増えているように感じます。例えばこども食堂でも、果たして本当に利用すべきなのか、という方がご利用になっているように思います。行政においても、行政サービスが施される場所をきちんと整理していただけると良いかと思います。また、先ほど委員が仰った「魅力のある就職先」についてですが、大手企業の支店や本店を誘致していただいて、そこから少しずつ若者が働く場所が増えるように取り組まれるのはいかがでしょうか。

委員)

「重要度・満足度」について、点数が下がっているように見えますが、百分の一の桁が動いているだけですので実質はそれほど下がっていないのではないのでしょうか。また、もう少し行政側が意図を持って、回答をどう使うかを考えて、戦略的に設問項目を設定されてはいかがでしょう。また、先ほど市民参画についてのお話があったと思いますが、あまり無理強いすると市民の側が疲弊してしまうので、配慮しながら進めていただくと良いと思います。

委員)

まず、今日の会議に何を求めているのでしょうか。アンケートを実施される事は決して悪くないと思いますが、そこで出てきた数字は、あくまで参考程度に捉えるべきではないでしょうか。先ほどから言及されている「満足度」ですが、人によって個人差がある訳です。山間部の、なおかつ周囲に民家のない場所に住宅を構えられている方を取材するテレビ番組がありますけれども、あの番組に出られているような方はあいった暮らしに満足感を感じられている訳です。例えば飯高管内から嬉野管内に移住しても、満足感が上がらない人もいらっしゃると思います。価値観は人それぞれですから、市政とは市民が望んでいる事を吟味して政策を講じていくべきだと思います。

委員)

行政がどうしたいのか、という意図を持ち、調査をする事は非常に重要だと思います。柱とする項目を決めて、それらについて聞いていくという事もあるのではないのでしょうか。

市長)

フルマラソンなどの重点課題については個別の項目で確認しています。このアンケートは松阪市全体の経年変化や、市民の意識がどう変わっていったかを掴むために実施しているもので、政策度の高い事項や集中投資についての市民の皆様のご意見は、このアンケートで全て聴取しているかということ、そうではない部分がございます。

会長)

市長の仰るように、この市民アンケートは市民の意識の傾向を掴むために実施されている部分が大きいと思います。「満足度」が低い項目については、何か問題があるのではないかとというような、そういう捉え方をする資料だと思います。

委員)

市民ニーズなどが低くてもやるべきことはやるべきだと思います。例えば国の政策においても外交とかは全く指示がありません。今般のコロナのパンデミックにおいても、日本が海外にワクチンを回した事は世界中で感謝されています。しかし、国内世論は自国のコロナ対策が先ではないかと

いう批判的な意見が相次ぎました。しかし、こういった政策は外交上非常に大きな武器となります。そのため、世論に左右されてはいけない部分というのは必ずあると思います。

委員)

私も市民アンケートをいただきましたが、あまり深く考えずに回答させていただいたというのが正直なところですよ。他にも大まかに回答されている方が、かなりの数いらっしゃるのではないのでしょうか。公共交通については、他町では安い金額で循環バスを利用できると聞きますが、私は山間部に住んでおりますので、駅に行くまでかなり料金がかかり、なかなか気軽に利用する事ができません。車を持っている若い方と同居されている高齢者は、まだ移動手段がありますが、そうでない方は病院にも行けません。何らかの対応をご一考いただければと思います。

委員)

私は、この市民アンケートは非常に良かったと思いますし、やはり地区別に見ていくことはとても重要だと思います。先ほど、山間部に居住する事に満足感を感じている人もいるというお話がありました。地域別に政策を考えていかないとそういう人に適した政策を講じる事が出来なくなると思います。アンケートの取り方などには、まだ改善すべき点があるかもしれませんが、市としての考え方は間違っていないと思います。ただ、アンケートで使われている行政用語が難しいものがあると思いますので、そのあたりを考慮して実施していただくと良いと思います。

会長)

このアンケートのデータはどのように使っていけば良いのでしょうか。

委員)

例えば公共交通に対する満足度が低い地域をこのアンケートで割り出して、その後はインタビュー調査を行って生の声を聞くなどすれば、より費用対効果の高い最適な政策を講じる事が出来ると思いますので、そういう使い方もあると思います。

委員)

やはり松阪市としての大きな目標を分かりやすくして、アンケートを実施していただくと良いと思います。

委員)

「子育て施策」に対する項目が見えづらいというお話がありました。やはり使われている言葉が難しく見えにくくなっているというところがあると思います。

事務局)

調査票では、難解な行政用語は平易な言葉に置換するなどして、回答者にとって分かりやすいものとなるよう工夫させていただいております。また、アンケートの送付先についても人口割を考慮させていただいております。

委員)

有効回答数についても、人口割と一致すればより良いと思います。

会長)

人材確保について、ご意見が少ないように思うのですが、いかがでしょうか。

委員)

例えばどこかの企業の支社を置くとしても、「とりあえず松阪にある」というような状態の会社では、若い人たちのキャリアアップに繋がらないと思いますので、どちらかというとな隣市町の会社に勤めやすくなるようなマッチングの仕組みなどを整えてもらって、なおかつ会社の中でシビックプライドの醸成に繋がる取り組みを進めてもらえれば、松阪市で働きたいと思う若者が増えるのではないのでしょうか。

委員)

私は松阪市にはイノベーションが必要ではないかと思います。ただ大企業の支社に来てもらえば良いというのではなく、その企業の質が重要だと思います。また、都会の企業の手法などを、市内企業が取り入れられる仕組みがあれば良いと思います。

委員)

そもそも本当に人が足りないのか考えても良いのではないのでしょうか。松阪市役所の仕事が、若い人が魅力的に感じるようなものになっていないのではないのでしょうか。AI が普及している訳ですから、この際本当に人がやるべき仕事を整理すれば、もしかするともっと少数の人員で良いのかもしれない。市役所の中でやるべき事とやらなくて良い事を整理すれば、その中で若い人が魅力を感じる仕事を組み上げる事が出来るかもしれません。

委員)

人材確保が難しいときは、早期離職の多い職場や職種は何か、またその理由は何かという事を今一度丁寧に見直すべきだと思います。

委員)

採用についてですが、若者の感覚が昔と違ってきていて、人の流動性が高まっているというのはあると思います。今の若者は自分の目標ややりたい事を明確に持っていて、それが出来ない職場だ

と去って行ってしまいます。逆に考えれば、中途採用を前提とした採用制度にすれば、人材を獲得出来るのではないのでしょうか。

委員)

今朝、新聞に教育者のなり手がいないという記事がありました。教育者の過酷な環境がクローズアップされていましたが、やりたいことが心身の健康に役立つという事もあると思います。

市長)

今、公務員という職業が過渡期に来ているのを感じています。社会人採用をしてから何年か経ちますが、社会人枠で入ってきた職員は離職も早いと感じます。公務員は総合サービス業で、やはり民間企業とはかなり勝手が違いますから、いざ入ってみるとギャップを感じる事があると思います。今の若者は自分を高める仕事でないと離れて行ってしまいます。松阪市もかなりの人数が年度途中で辞めて行ってしまいます。世の中はだいが変化していますが、市役所は未だに4月採用を行っています。今後は随時獲得するシステムを考えていく必要があるのかもしれませんが、ただ、やはり市役所で働いてもらう人は真面目で真摯である必要があると思います。さらに、ありとあらゆる市民の方と接しますから、精神的なタフさも求められます。そういう人材を採用しようと思うと、非常に悩ましいところがあります。また、そろそろ人事異動が近づいてきましたが、適材適所の人事はなかなか難しいところがあります。特にこれからは女性の活用というのがありますが、先日これから管理職になろうという女性職員から「これまでは課内の管理事務しかしていなくて、いきなり課のマネジメントをやっていくのは難しい」と言われ、私もつくづくその通りだと感じました。女性の活用を考えていくのであれば、もっと人事的な部分も考えていかななくてはならないと感じています。

委員)

企業でも、同じところで働き続ける人は少なくなってきました。また、子育ての合間にドローンを使って農地の管理をしているという主婦の例を知っています。今は1週間同じ仕事をしないといけないような時代でもなくなってきました。そう考えると、例えば市民の方に準公務員のような雇用形態で市役所で働いてもらうなどするのも良いのかもしれませんが、そういった取組は結果的に行政に関わる人を増やす事に繋がりますから。守秘義務等がありますけれども、市政は公務員のものという考えを捨てて、思い切った事をされるのも良いのではないのでしょうか。

委員)

先ほどの市長のお話と、委員のお話は全く同感です。私は民間で仕事をしておりますが、私から見ても行政組織の難しさは感じ取る事が出来ます。複雑性が高く、お客さんを選べないという点もあります。たまに新聞で行政は民間活力を活かせという旨の記事を目にする事がありますが、私は、それは少し違うと思います。民間企業でも知恵があつて能力の高い人はごく一部です。民間企業も

基本的には人材不足に頭を悩ませていますし、層の厚い会社はなかなかありません。行政職の方は基礎能力は極めて高いと思いますので、人事制度やキャリア開発はもうちょっと大胆にしても良いのかもしれませんが。また、先ほど市長が仰った中途採用の人が辞めやすいというのは確かにあると思います。最近中央省庁の人事系業務のお手伝いをさせていただいておりますが、最近厚生労働省や金融庁も離職者が続出しています。ただ、一回辞めて民間企業で勤めて、そこでパワーアップして出戻りして活躍する例が散見されます。良い組織は出戻りを認めるというのもあると思います。また、途中で行政に入られた方が辞める理由の一つとしてカルチャーギャップがあると思います。民間は少し自由度が高い面もありますが、行政では中々そうはいきませんから、そこで嫌になってしまうというのはあると思います。最初に寄り添い方の細かいサポートを行い、カルチャーギャップを埋める事で、かなり定着率が高まると思います。

委員)

働き方改革というところが必要なのではないでしょうか。行政は出向や副業は可能なのでしょうか。

市長)

最近法律が変わってきて、副業兼業も可能になってきました。例えば交流人事で民間に1年間行く事も可能になってきました。こういった事に着手すると人材育成は各段に進むのではないかと考えています。

会長)

先ほど委員が仰ったように、人事制度について思い切った事をやるのがいいのかもしれませんが。

委員)

例えば地域の中に入っていくとき、公という器を使いながら入っていくと良いと思います。また、公務員という肩書は認めてもらいやすいというのがありますから、うまく使うと良いと思います。

事務局)

ありがとうございました。では最後に次回の開催についてご連絡をさせていただきます。次回は3月20日月曜日15時からの開催予定です。日にちが近づいてまいりましたら、またご案内をさせていただきますので、よろしく願い致します。以上をもちまして、第27回松阪市政推進会議を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

《午後5時00分終了》